

観音寺中学校 道德通信 7月号

本格的な夏の到来を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回の道德通信では、自らの危険を顧みず多くの命を救う「命のビザ」を発給した杉原千畝さんのお話「六千人の命のビザ」です。緊迫した状況下で、彼がなぜその決断を下せたのか。どんな思いが彼の突き動かしたのかについて考えました。



杉原千畝さん

第二次世界大戦中、リトアニアの領事館に赴任していた外交官・杉原千畝。ナチス・ドイツの迫害から逃れてきた多くのユダヤ難民が、日本への通過ビザを求めて領事館に殺到しました。

日本の外務省からは「条件を満たさない者への発給は認めない」と拒絶されます。しかし、目の前で助けを求める人々の姿を見た彼は、国命に背くリスクや自身の未来への不安を抱えながらも、人道的な観点からビザを書くことを決意しました。

寝る間も惜しんで手書きでビザを発給し続け、救った命は約 6,000 人にのぼると言われています。彼は「人間の命を何よりも最優先する」という強い信念を持っている方です。

○授業を通しての感想（生徒記述より）

私は杉原さんはすごいなと思いました。自分の日本という国に反抗してまでも、ユダヤ人を助ける勇気がすごいなと感じました。また、家族や自分の命よりも、たくさんのユダヤ人の命を大切にしたい決断が私にもできたらいいなと思いました。	私にとって戦争はあまり身近なものではないけど、昔大勢の人々が戦争によって命を失ったし、日本も戦争をしていた時代があったから、将来は世の中から戦争がなくなり、誰もが国境をこえて手を取り合える社会を目指していきたいと思いました。
この授業を通して僕は、自分のことだけでなく人のことを考え、周りを見て判断をしたり、もっと人のためになることをしたり、間違ったことをしても、その後の未来につながっていくことを信じたりしたいです。これからしっかり周りの人のことを考えて頑張っていきたいです。	自分の立場だったら、ビザを書いてあげたいけど、自分や家族が殺されるかもしれないので、書かないと思うけど、杉原さんは、家族をなくしてしまう覚悟をもって、ビザを書き、6,000 人の命を救って、今では子孫 25 万人もの命が生きていて、すごい勇気ある行動だと思いました。
私だったら絶対逃げます。なぜなら自分が死ぬかも知れないし、家族が危険にさらされるからです。6,000 人を見捨てたら、ものすごい罪悪感が残るけど、私は杉原さんみたいな行動はできません。だから、杉原さんの行動、自分や家族が死ぬ可能性があるのに 6,000 人を見捨てない、これはすばらしい行動だと思いました。	私だったら、もし本当に自分や家族の命がねらわれていたら、書きたくても逃げてしまうと思います。自分 1 人で赴任していたら書くかもしれないけど、家族もいるのに、20 日以上も残る勇気は出せないと思います。最後まで書き続けたこの人は、1 人の人間としても、家族のいる 1 人としても、日本人としても本当にすごい人だと思いました。私も人数の多さに関係なく、知らない人のためにつくせるような人になりたいです。
授業をして、人のことを思い、誰かのために苦悩の行動をしている杉原さんはすばらしいと思いました。人は誰もが平等だと考えたことにも、当たり前だけど、いい人だと思いました。罪のない人を助けるために杉原さんはできることをしていてすごいと思いました。自分も人のことを考えて行動しようと思いました。	杉原さんは国に関係なく、命を助けようとしたのがすごいと思いました。杉原さんは自分も自分の家族も危険な状態だったし、外務省からの許可も出なかったけれど、それでもビザを発行して六千人の命を助けたのは、命を大切にする思いがあったからだと思います。

道徳通信 6 月号の返信より

- ・ 感じ方や捉え方は人それぞれなので、どの場面においても言動に細心の注意を払わなければならないと思います。和を乱さないことプラス常に自分に置き換えて行動できる大人になってほしいです。
- ・ どんな立場であっても、人の気持ちを想像できる人ばかりになればイジメも争いも減っていくと思うので、大人が率先して子供に示していくべきだと感じました。
- ・ 注意するのは大人もむずかしいものです。子供ももちろんのことと思います。だから、子供たちが述べているように、大丈夫？と寄り添い、他人を気づかえる優しい気持ちはとても大切だと思います。そして、誰かを傷つける発言や行動をしない人になれるといいですね。みんながそうなれば、楽しい学校生活になると思います。
- ・ 自分の行動や言動が相手にはどう捉えられるかを考えることができることが大切だと思います。注意された後にどんな行動ができるかも考えてもらいたいです。

ご返信、ありがとうございました♪

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。